

氏名	謝 惠玲 (シャ ケイレイ)
学位の種類	博士 (造形)
学位記番号	博第 12 号
学位授与日	平成 24 年 9 月 13 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 1 項第 3 号該当
論文題目	ボディ・ペインティングに関する考察 -作品制作とその考察を中心に-
審査委員	主査 教授 Christophe CHARLES 副査 教授 小林 昭世 副査 教授 朴 亨國 副査 山野美容芸術短期大学 客員教授 公文 裕子

内容の要旨および審査結果の要旨

論文の構成と目次

本研究は、謝惠玲自身のボディ・ペインティングの制作とその考察からなる。論文は、下記目次の通り、謝惠玲の制作の基盤である、化粧の歴史において蓄積されてきた技術、ヴェルーシュカ (Veruschka) によって 1960-70 年代以降に展開されたボディ・ペインティングの先駆的な制作とその考えが考察されることにより、謝惠玲の制作を考察する観点が抽出されている。

論文の目次は以下の通りである。

第 1 章：序論

第 1-1 節 研究の背景と目的

第 1-2 節 論文の構成と研究方法

第 2 章：現代のボディ・ペインティングにおける基礎概念

第 2-1 節 伝統的なボディ・ペインティング

第 2-2 節 伝統的なボディ・ペインティングの現代芸術への影響

第 2-3 節 ボディ・アート (別種なボディ・ペインティング)

第 2-4 節 現代のボディ・ペインティング

第 3 章：ボディ・ペインティングに不可欠な化粧と技術

第 3-1 節 化粧のジャンル

第 3-2 節 化粧の起源と歴史

第 3-3 節 化粧の展開

第3-4節 化粧による加齢の表現

第4章：ボディ・ペインティングの作品制作と考察

第4-1節 自然の表現と擬態

第4-2節 パフォーマンスとボディ・ペインティング

第4-3節 ボディ・ペインティングにおける空間表現

第4-4節 光の運動とボディ・ペインティング

第4-5節 舞台演出におけるボディ・ペインティング

第5章：結論

参考文献

今後の展望

付録資料：制作物の画像と映像

ボディ・ペインティングと化粧の教育プログラム

研究の概要と特徴

第1章では、序論として研究の背景と目的が述べられた後、論文の構成と研究方法が示される。

第2章では、ボディ・ペインティングの成立について述べられている。民族化粧等の「伝統的なボディ・ペインティング」と現代の美術の一つとして展開された「ボディ・アート」が概観され、それらの表現の影響を受けて、しかし独自のものとして「現代のボディ・ペインティング」が1960－70年代にヴェルーシュカらの活動を通して成立するという筆者の立場が示される。筆者が「ボディ・ペインティング」とよぶものは、狭義には1960－70年代に展開された「現代のボディ・ペインティング」である。

民族化粧等の伝統的なボディ・ペインティングは、近代において衰退する一方、その一部は、中央アジアや南アジアのヘンナのように技術と文様が世界的に普及しているものもある。次に、20世紀はじめから1960－70年代にかけての現代芸術の中の展開されたボディ・アートが概観される。それらをもとに、謝恵玲の制作に強い影響を与えたヴェルーシュカの活動を中心に現代のボディ・ペインティングの成立が考察される。ヴェルーシュカの制作を読み解くための、「動機」、「コンセプト」、「技術」、「表現」という枠組みと、表現にとって重要な、「芸術」、「自然」、「身体・皮膚」という概念が考察され、これらは謝恵玲自身の制作を考察する場合にも有用な枠組みを与えている。

第3章は、謝恵玲のボディ・ペインティング制作の基盤、とくに技術的基盤として重要な化粧の文化と技術が述べられている。今日、化粧はボディ・ペインティングと必ずしも同じジャンルとして成立しているわけではないが、歴史的には、たとえば、中国の唐代、ヨーロッパのルネッサンスの時代には、化粧とボディ・ペインティングが分けがたく結びついた事例をあげることができる。化粧とボディ・ペインティングが社会生活で広範囲に利用されている今日の状況では、再び、化粧とボディ・ペインティングが一体になりつつ

あることが論じられる。

本章では、先ず、化粧の用語の整理が試みられる。今日、化粧は化粧品をはじめとする各種製造業者により、結婚式等のイベントを運営する事業体により、また、コマーシャルや舞台などのジャンルにより、化粧に関する用語が異なる。ボディ・ペインティングの技術的基盤の一つとして、化粧の知識を応用するために、化粧に関する多様な用語の整理が試みられている。

また、ボディ・ペインティングと結びついている中国の唐代の化粧、ヨーロッパのルネッサンス以降の宮廷での化粧を例として、これら化粧の主要な機能である。この美しく見せること、若く見せることは、若さと加齢をあつかった美術作品の事例の検討も踏まえて、若さと加齢の化粧法へと応用され、その実践例が示されている。

第4章は、この研究の中心をなし、謝恵玲自身の制作について述べられる。

著者の作品数は多く、多岐にわたる。それらの制作を、「自然の表現と擬態」、「パフォーマンスとボディ・ペインティング」、「ボディ・ペインティングにおける空間表現」、「光の運動とボディ・ペインティング」、「舞台演出とボディ・ペインティング」に分類し、ボディ・ペインティングの作品を語るための視点が整理されている。制作のなかで、たとえば、蛍光顔料を使用し、独自の技術に基づいた展開した作品、空間や舞台の例のように美術の領域との共同作業をした作品などに特徴がある。

付録は、8点の作品の画像（一部映像）、そして、謝恵玲が今後進むことを希望しているボディ・ペインティングの教育についてのプログラム、教材等の資料からなる。この教育に関する資料にも数点の作品が含まれている。この教育のデザインは未だ完成したとはいえないが、産業として、また表現のジャンルとして、今後の発展が期待されている。

最終試験

謝恵玲の提出書類やこれまでの制作・研究成果が、博士論文審査申請資格を充たすことを確認したうえで、最終試験をおこなった。

最終試験は、博士論文の考察と制作について、さらには博士論文の範囲を超えて、今後の活動、今後の制作活動における研究の意義等について、口述で答えを求める形でおこなった。謝恵玲はそれらに適切に答えた。

審査の概要

最終試験の後、審査をおこなった。

提出された制作については、たとえば、光の残光を用いた制作の独自性や今後の応用が期待される点、また他の専門家との共同作業による、舞台のパフォーマンスによるボディ・ペインティングの完成度などが、高く評価された。

「研究の概要と特徴」で示した通り、化粧の技術とその文化の歴史に基盤をおいたボディ・ペインティングの制作論の展開は独自であり、今後のこの分野の制作をきり開いていくこ

とが期待される研究である。

しかしながら、問題点もある。化粧の技術とその文化の歴史については、学術的な観点から、資料に基づいて十分に調査されたとは言いがたい箇所があること、また、現在、多様な産業が参入している化粧に関する諸概念について、研究の基盤を与えるほどには十分にその諸概念が精査され、共通言語として提示されてはいない点である。

化粧の文化と歴史については、本研究が歴史研究を目的とするものではなく、歴史からボディ・ペインティング制作のために有用な知識を獲得するという主旨で研究が構成されている点、また、化粧の諸概念については、様々な産業が参入している現状を先ず概観することが第一歩であり、本研究の延長上に共通言語の提示がなされると考えられるので、これらの問題点については、謝恵玲の今後の研究の進展に期待したい。

さらに語彙の一貫性、文献情報と作品情報の記載様式の統一性を整えることを条件に、上記のいくつかの問題点はあるが、審査委員一同は、本研究がこの領域の制作と研究をきり開き、この課題に対する制作と研究に寄与するものであると認め、武蔵野美術大学の博士（造形）の学位を授与するにふさわしいと判断した。



「虹の妖精」1994年
第19回全アジアヘア&メイクアップコンテスト
メイクアップ部門第2位(台湾選手代表第1位・参加国15ヶ国)



「鰐魚」2005年
鰐魚の擬態化粧は、パフォーマンス用のボディ・ペインティング。
ビデオ・ミュージック・パフォーマンス：武蔵野美術大学シャルル研究室と英国ノッティンガムトレント大学とのコラボレーション、スーパーデラックス(六本木)にて発表。
(デザイン・振り付け：謝維玲 パフォーマンス：李利)



「ボディ・ペインティング」2006年
(写真：小池浩二)



「木の妖精」2005年
-自然を利用した作品表現-(武蔵野美術大学・個展)



「作品展示の空間表現」2008年
展示会場は、照明、作品写真、立体造形物から構成した。
(武蔵野美術大学・博士後期課程 研究発表展)



「光の残像を用いた作品」2006年
(写真：Juergen Specht)



「蛍光顔料を用いた作品」2006年
武蔵野美術大学のオープンキャンパス：武蔵野美術大学シャルル研究室と韓国李元坤研究室とのストリーミングイベントにて発表。東京朝&韓国朝のコラボレーション。
(写真：小池浩二)



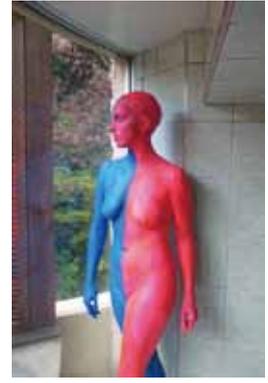
「赤い妖精」2006年
(写真：青木香織)



「赤い妖精」2006年
(写真：青木香織)



「秋の妖精」2010年
(モデル：Emily Miller)



「青と赤」2010年
(モデル：Taylor 写真：小池浩二)



「青と赤」2010年



「マスクの擬似化粧」2011年
(モデル：Emily Miller)



「マスクの擬似化粧」2011年
(モデル：Taylor)



「蝶」2011年
(モデル：Taylor)



「桜」2012年
(モデル：Taylor 写真：小池浩二)



「桜」2012年
(モデル：Taylor 写真：小池浩二)



「樹」1995年



「舞台演出の作品」2004年
ヘア・ファッションショー(新横浜プリンスホテル) ボディ・
ペインティング担当



「舞台演出の作品」2008年
ボディ・ペインティング舞台・作品のデモストレーション
：学校法人 佐々木学園 東京総合美容専門学校主催。
(舞台演出・振り付け：謝惠玲 写真：小池浩二)